

鳥取に新しい風を イギリス人の消防団員



Close
UP

グレアム・コープさん
【イギリス出身/米子市在住】

来日10年を迎えたコープさんは、イギリス・マンチェスターの出身で英語の先生、日本人の奥様とお子さんと米子市内にお住まいです。「地域の安全を守りたい」という思いで消防団（彦名分団）に2011年6月に入団されました。地域に溶け込み、日々消防団活動をされている、コープさんにお話を聞きました。

消防団に入団したきっかけは？

テレビで東日本大震災のニュースを見ていたとき、ある映像が目飛びこんできました。地震の津波で建物の屋根に取り残された人を救出するカメラマンとテレビリポーター、男性2人の姿でした。自身の危険も顧みず、救出にあたった2人のうちの1人は、消防団に所属していたということが後で分かりました。震災をきっかけに自分も何かできることはないかと真剣に考えるようになりました。また、米子に来て10年が経ちますが、この10年間、お世話になった周りの人々に何かの形で恩返しができないかずっと考えてきました。そんな折、自宅に回ってきた回覧板の「消防団員募集」の記事が目にとまり、これだ!と思いました。家族からは「本業もあるのに、大丈夫?」



放水訓練の様子

と心配されましたし、自分自身、正直不安もありました。しかし、彦名分団の団長さんをはじめ団員の皆さんは、イギリス人の僕を温かく迎え入れてくれました。

コミュニティを大切にする日本人

消防団に入団してからは、実際に地震が起きたり津波が来た時、何をすべきか、どこへ避難すべきかなどについて、以前よりもっと考えたり、子どもと話をする機会が増えました。出身地であるマンチェスターにも消防団のような組織はありませんが、日本の方が防災に対する意識は高いです。また、地域の人たちと協力し合う、助け合うという精神が日本人には深く根付いていると感じました。特に、非常事態には「地域の人々と協力すること」はとても大切になってくると思います。また、地域活動や公民館などで開かれる行事に誘われることも増え、近所の人たちとの距離が近くなりました。それと同時に、地域の一員としての自覚も芽生えました。



1月に行われた米子市消防出初め式

地域で頼りにされる消防団員を目指して

1年目の訓練では、消防団の独特な号令や動きなど、初めての体験ばかりで戸惑うこともありましたが、団員の皆さんは易しい日本語に直して分かりやすく説明してくれたり、辞書を使って単語を調べてくれたりしました。そして、今年も米子市消防ポンプ操法大会に出場します。この大会は消火活動に必要な技術や現場での的確な行動、チームワークを養うことが目的で開かれます。設置されているタンクから給水し、火点(かてん)と呼ばれる的に放水を当てて倒すまでのタイムと正確さを競い合いますが、昨年は初めての出場でもとても緊張したことを覚えています。今は大会に向けて週に1回、団員の皆さんと一緒に練習をしています。少しずつ自信もついてきました。去年よりいい成績を収め、訓練の成果を現場で生かせる団員になることが今の目標です。

JICAデスク
よりお知らせ

高校生国際協力体験プログラム 応募締切: 7/5(金)

JICA中国(東広島市)で中国5県の高校生を対象として、1泊2日の国際協力プログラムを実施します。今年のテーマは「国際協力について考える」です。参加型ワークショップを通して国際協力について深く知ることのできるチャンスです!

日時 7/27(土)・28(日) 場所 JICA中国国際センター(東広島市)

費用: 2,000円程度(朝食代を除く2日分食費)、各自の復路交通費 対象: 中国地方の高校に通学する現役高校生(参加1グループにつき、成人の引率者1名)

参加者
募集!



プログラムの
詳細はコチラ

お問い合わせ



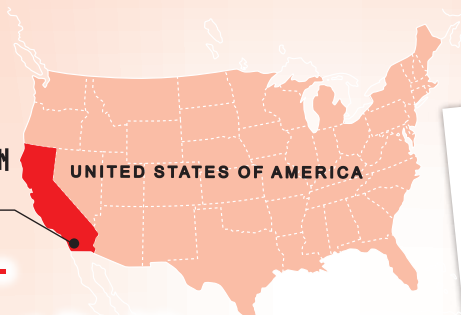
独立行政法人 国際協力機構

鳥取県JICAデスク
【鳥取県国際交流財団本所内】

TEL: 0857-31-5951 (浅野 由嘉)
E-mail: jicadpd-desk-tottoriken@jica.go.jp



カリフォルニア州
サンディエゴ郡



海外を志すー 16歳で渡米し1年後に起業

～太平洋の懸け橋として走り続けた40年～

幼い頃から日本だけでなく広い世界を見てみたいという強い海外志向がありました。16歳で語学を勉強するために単身アメリカに渡ってきましたが、幼少からの希望だったからか、思春期に渡米したにもかかわらず日本へのホームシックにかかることはほとんどありませんでした。現地の高校に通い始めて1年ほど経った後、海外で起業したいという夢と以前からの父の希望もあり、現地で「カリフォルニア・コイ・ファーム」を始めました。1975年、17歳の時でした。



サンディエゴ郡フォールブルックにある養殖場

私の父は1960年代から米子市陰田町で錦鯉の養殖業をしていました。父は事業を始めた当初から、いつかは海外に自分の育てた錦鯉を輸出したいと考えていました。父はブラジルへの輸出を考えていましたが、当時は生き物の輸出事業自体あまり前例もなく難しかったため、事業を断念せざるをえなかったということです。そんな折に私がアメリカへ留学を希望したため、日本から錦鯉を輸出するのではなく、アメリカで錦鯉を養殖してみてもどうか、ということになったのです。私がカリフォルニアで養殖を始めた時も現地の父の友人や日系人の方に随分お世話になりました。高校に通いながら学業と養殖業を両立させるのは大変でしたが、子どもの時から養殖に親しんでいたのと、当地の学校で良い友人に恵まれたことも大きな助けになりました。

単身渡米して錦鯉一筋に40年になります。現在私のつくった錦鯉はアメリカ各地とカナダ、メキシコなどに輸出しています。フォールブルックにある私の養殖ファームは10エーカー(40,000㎡)あり、この敷地内にいくつもの養殖用の池があるわけですが、ここの土地を選んだ大きな理由は地形が養殖用に池を作るのにとっても適していたからです。自然の生き物相手の商売ですから、予期せぬハプニングもありました。アメリカは気候が違うため、錦鯉の産卵期や水の質、害虫なども全く違います。錦鯉の健康チェックする時間に、たまたま行けなかったせいで、全滅させてしまったこともあります。これからは錦鯉の養殖だけでなく、錦鯉たちがより美しく映えるような庭園の設備も扱っていきたいと思っています。そして私たち日本人の文化である美しい錦鯉と日本庭園を多くの人に知って欲しいです。

さて、鳥取県からカリフォルニアには多くの県民が移住しています。最初の移住者は1895年で、その後アメリカ渡航が盛んになり、1909年にロサンゼルスで「鳥取県人会」が発足しました。特に米子の弓浜地方の出身者が多かったことから、その後名称を「弓浜クラブ」とし、1941年まで活動が続きました。戦後は「南加鳥取クラブ」として再発会し、毎月役員会を一回も休むことなく今日まで開催しており、料理や手芸の講習会、旅行、ピクニックや傘踊りの催しなど、三世、四世の参加を得ながら同郷の人たちの絆は益々強くなっています。以前から鳥取県の

知事や青年海外視察団などが度々訪米され南加鳥取クラブと親睦を深めてきました。現在会員数は約200人で、2009年には「南加鳥取クラブ創立百周年記念祝賀式典」がロサンゼルスで盛大に開催されました。日米戦争による人種差別や強制収容所などの苦難を乗り越えて日系社会発展の礎を築いた先人の努力と忍耐に敬意と感謝を捧げたいと思います。また、二人の息子が小学生の時に毎年夏休みに帰省して、6～8月の期間米子市立就将小学校に通学して日本の生活を体験できたことは、日系二世の子どもたちにとって素晴らしい思い出になっています。私たちの心の中にはふるさと鳥取を思う郷土愛が今も生きています。



鳥取県人会100周年へのオバマ大統領とシュワルツェネッガー知事(当時)の祝辞

一世の世代が去り行く今、私たちの願いは、鳥取県民と南加鳥取クラブが交流を深め、日米の懸け橋として地域のグローバルな人材の育成と国際的な発展に貢献することです。大きな志と世界に夢を持った鳥取人を生み出したい。太平洋の彼方からふるさと鳥取県、愛する米子の発展を祈っています。



鳥取県人会(南加鳥取クラブ)の創立100周年記念祝賀式典(2009年・ロサンゼルスにて)

Main Projects for 2013

Disaster Prevention Seminar for Foreign Residents New!

As described in our email magazine, TPIEF is offering a free disaster prevention handbook in simplified Japanese to help everyone develop an emergency-ready mindset and help people to be better prepared in the event of a disaster. This year we will hold a disaster prevention seminar where people can develop their knowledge regarding disasters and know what to do to protect themselves and their families. Training will be offered in the form of fire drills and earthquake simulation in the fire engine while developing participants' awareness. We will announce the schedule on our web site and in the email magazine as soon as it is decided.

Japanese Classes

We offer free Japanese language classes for anyone who wants to learn the essentials of communication for daily life. Anyone who has taken any classes before is welcome to return at any time. Class schedules vary according to location; individuals who cannot attend these sessions may opt for private instruction through one of our volunteer teachers.

Ventures Promoting Intercultural Exchange

Intercultural exchange festivals and other ventures are being planned in cooperation with exchange organisations and local and international residents to foster social interaction between locals and people from abroad.

Dispatch of Volunteer Interpreters Free to Use /

Have you experienced communication difficulties during medical exams or consultations? Our volunteer medical interpreters are here to help, along with community volunteer interpreters offering their services for government or academic procedures. TPIEF covers all reimbursement and travel expenses for our interpreters.

Coordinators for International Relations

TPIEF employs coordinators from the US (Head Office only), China and Taiwan. Feel free to talk with them and see them for consultations.

Visa Consultation (Head Office only, 2nd Sunday of each month)

Consultations are free of charge. Please make an appointment in advance.

TPIEF is engaged in many additional projects; feel free to inquire at your local office if you are interested in learning more. Contact information and more is available on our web site at <http://www.torisakyu.or.jp>.

Explore Our Library Corner



All materials are free for lending.

Patrons are welcome to make requests for new books.



Space for study and perusing of materials (Yonago office)



Bulletin board and new arrivals corner (Kurayoshi office)



Magazine corner (head office)

We stock a variety of Japanese language study materials, publications on matters of cultural interest, picture books in foreign languages, and more. Most books can be checked out for a period of two weeks, with Japanese language study materials available for one month at a time, up to five books per person at one time. English language periodicals such as Time, Days Japan, Fine Cooking, and KATEIGAHO International Edition are also available; the latest editions of magazines must remain in the library, but all back issues may be checked out.

[Tottori in a New Light]

An English Firefighter

Graham Cope, Yonago Resident of British Origin



Mr Cope came to Japan over ten years ago, and resides with his Japanese wife and child in Yonago, where he teaches English. With a desire to protect the safety of the area, he joined the Volunteer Fire Corps (Hikona branch) in June of 2011. He spoke to us about merging with the local community during his activities as a firefighter.

What made you join the fire department?

When I saw the news of the Tohoku Earthquake on television, I remember one image of two men who went to rescue people stranded on their rooftops after the tsunami without a thought to their own safety. I found out later that one of the men belonged to the fire brigade. I was inspired by the disaster to start thinking seriously about what I could do to help. It had been ten years since I came to Yonago. I started thinking all the time about all the people who had helped me along the way and felt a wave of gratitude. Around that time, a want ad for volunteer firefighters came around on the neighborhood circular, and I thought, that's it, that's what I want to do.

The Japanese Treasure Their Community

We have something like a fire brigade in Manchester, my home town, but there's a much greater awareness of disaster preparation in Japan. There's also a deep sense of cooperation among neighbours, and mentality of willingness to help, among the Japanese people. Lately I'm being invited to all kinds of local activities and events at community centres, and I'm feeling more and more like I really am a part of the community.

Becoming a Reliable Firefighter for the Region

At the regular training I was confused at first by a lot of the technical words and actions, but the other firefighters took the time to explain things simply, even looking things up in a dictionary when the need arose. I'll also have training in pump operation this year and get the essential skills I need and foster more teamwork. I'm training with the corps once a week to get ready. I'm hoping to improve on last year's performance and be ready to put my skills to the test when the time comes.

平成25年度 财团的主要事业

■ 为外国人所举办的防灾讲座 新事业

为了从平日就能做好防灾准备,财团有发送以「简单的日语」写成的防灾手册,也有以发短信的方式传送可以启发大家对防灾及安全意识等的情报。为了让大家可以学习到更多的防灾知识,今年度我们将开办防灾讲座以确保发生灾害时知道如何保护自己及家人的安全。内容为灭火训练、以起震车体验地震感度等实际的演练。日期一决定将会于财团的网页公布或以短信告知。

■ 日语班

我们为想要学习日语的朋友免费开班教导日常生活中所需的日语。只要有想要继续学习的意愿,不管是谁都可以随时参加。日语班的上课日期因各个事务所有所不同。如果时间无法配合,我们可介绍个人的日语教学义工给您。

■ 促进国际交流事业

为让县民和在住外国出身者可以轻松的交流,我们会不定期举办「国际交流集会」。另外也有由交流团体与县民、在住外国出身者共同努力举办的「国际交流欢乐活动」。

■ 翻译义工的派遣 \ 请多加利用 /

在医院看病或至保健机关做身体检查的时候,曾经因语言不通而有所困扰吗?在市役所办理手续或学校、保育园的面谈时,希望有人可以在语言上从旁协助吗?我们有「医疗翻译义工」或「社会生活翻译义工」可以派遣支援。*对于派遣义工所产生的费用如礼金、交通费等都将由财团负担。

■ 国际交流协调员

依星期不同,我们有美国(只限本所)、中国、台湾出身的协调员常驻。若您对日常生活上有需要咨询的,请多加利用此服务。

■ 有关在留手续的咨询 (只限本所·每月的第二星期天)

免费咨询服务、请事先预约。

除了这些之外,财团还有很多其他不同的事业。如果有兴趣,请随时与我们联系。
财团网页 / <http://www.torisakyu.or.jp>。(联络方式请参考最后一页。)

请多加利用 财团图书区



书籍及杂志都可免费外借!

若您有希望我们购买的书籍,也可以直接告诉我们。



我们有可阅读图书或学习的空间供您使用(米子事务所)



信息公布栏·新书区(仓吉事务所)



杂志区(本所)

财团图书区购有很多学习日语的教材、外语图画书或有关日本文化、国际理解等的书籍可免费外借。一般图书两周、日语教材一个月、一个人最多一次可借5本。另外也有家庭、读者、知音等杂志及关西华文时报、人民日报。最新杂志只供于所内阅读,旧刊则可外借。

【鸟取新风格】

来自英国的消防队员



来到日本已经10年的グレアム・コープさんは英国曼彻斯特出身的英语老师,和日本人的妻子与小孩一起住在米子市内。因为他「想要守护地区的安全」,所以于2011年6月加入消防队成为彦名分团的一员。这次我们访问了融入地区、积极参与消防队活动的コープさん。

会想加入消防队是因为东日本大震灾的关系

在电视上看到了东日本大震灾时,有两位男性救出了因海啸而到屋顶上避难的人的报导,使我留下非常深刻的印象。后来我才知道那两位不顾自身危险、挺立相救的其中一员是所属消防队。因为这个震灾让我认真的思考自己有没有什么地方是可以帮得上他人的。另外我来到米子的这将近10年里受到了很多人的帮助。我也一直在想有什么方式可以回报呢?!就在那个时候我看到了「招募消防队员」的消息,于是我的第一个想法是「就是它了!」。

日本人是一个非常重视社区性的民族

在我的出身地曼彻斯特也有像消防队这样的组织,可是我觉得日本人的防灾意识比较高。而且我感觉那种「和地区的人们一起互助合作的精神」在日本人身上是根深蒂固了。最近很多地区或公民馆所开办的活动都会找我一起参加,让我更觉得自己已经是这个地区的其中一员了。

以可以让大家信赖的消防队员为目标

因为消防队有很多它独特的口令及动作等,所以对于什么都是初体验的我来说刚开始有很多困惑的地方。但是其他的团员会尽量改用简单易懂的日文再次说明给我听,也会帮我查字典告诉我那些单词的意思。今年我也将出场参加米子市消防泵操法大会。这个大会是以在灭火行动中所以必须的技术及在现场时的确切行动及培养与其他队员的默契为目的。现在们为了这个大会,一周练习一次。我今年的目标是可以拿到比去年更好的成绩,然后当真的火灾发生时可以将平日训练的结果展现出来。

【公益財団法人鳥取県国際交流財団】

あなたもぜひ、賛助会員に!

当財団では、県民の皆様の幅広い支援・参加を得て、皆様とともに県民参加型の国際交流事業を進めていくため、趣旨に賛同して下さる賛助会員を広く募集しています。国際交流に興味はあるけど何から始めればいいのか分からないとお悩みの方も、まずは当財団の賛助会員にきっと楽しい世界が広がるはず。皆様のご入会をお待ちしております!!

入会方法

財団の各事務所で入会を受付けています。また、公共施設にも申込用紙を置いてありますので、必要事項をご記入のうえ、お申し込みください。

【入会対象者と年会費】

個人会員	1口/ 2,000円
学生会員 (高校生以下)	1口/ 500円
団体会員	1口/ 10,000円

※会員期間は、毎年度4月1日から翌年の3月31日までです。
※途中入会の場合、年会費は入会月に合わせて割引になります。

会員特典

特典1 財団情報紙(年4回)「とっとり国際通信」送付

特典3 提携飲食店、観光施設等割引サービス

特典2 財団図書貸し出し増冊サービス

特典4 旅行会社のパック商品等優遇割引

※提携している飲食店、観光施設、旅行会社等とサービス内容については、ホームページに掲載しているほか、一覧表を機関紙と共に送ります。

ご利用
ください

財団図書コーナー

購入希望図書
のリクエスト
も受付中!

書籍

国際交流や多文化共生、子ども向けの国際理解に関する書籍や外国の絵本、語学検定試験用の参考書や最新の旅行ガイドブックなどをそろえています。日本語を教えたい人や勉強したい外国人のための日本語教材も多数あります。

●貸出期間

書籍・雑誌・・・2週間
日本語教材・・・1ヶ月

貸出
無料

雑誌・新聞

ENGLISH JOURNAL、聴く中国語、ひらがなタイムズ(日本語/英語)、留学ジャーナルなどの雑誌や外国語の新聞を置いています。海外の情報入手や語学の勉強にぜひご活用ください。雑誌は、新刊は閲覧のみですが、バックナンバーは貸出をしています。



▲情報掲示板・新着図書コーナー(倉吉事務所)



▲雑誌コーナー(本所)



▲図書の閲覧や学習などに利用できるスペース(米子事務所)

おすすめ図書



NHKラジオテキスト
『英語で読む村上春樹
～世界のなかの日本文学～』



『スッカラ
～韓国ステキと出会う～』
韓国の文化、習慣、
流行、芸能などを紹介



『家庭画報
International Edition』
日本の文化や四季、ライフ
スタイルを世界へ発信

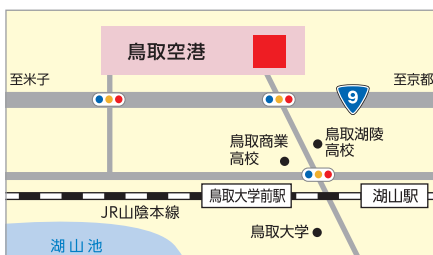
本所

Head Office / 本所

〒680-0947
鳥取市湖山町西4丁目110-5 鳥取空港国際会館1F
TEL.(0857)31-5951 FAX.(0857)31-5952
E-mail / tic@torisakyu.or.jp

■利用時間

平日 9:00~18:00 土・日 9:00~17:30
祝日・年末年始はお休みです



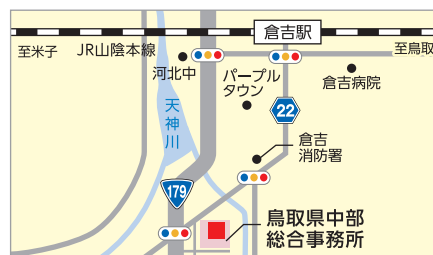
倉吉事務所

Kurayoshi Office / 倉吉事務所

〒682-0802
倉吉市東巖城町2 鳥取県中部総合事務所別館
TEL.(0858)23-5931 FAX.(0858)23-5932
E-mail / tick@torisakyu.or.jp

■利用時間

平日 8:30~17:15 土・祝日・年末年始はお休みです
※臨時に閉所する場合は、HPで随時お知らせします。



米子事務所

Yonago Office / 米子事務所

〒683-0043
米子市末広町294 米子コンベンションセンター1F
TEL.(0859)34-5931 FAX.(0859)34-5955
E-mail / ticy@torisakyu.or.jp

■利用時間

平日 9:00~17:30 土・日 10:00~17:00
祝日・年末年始はお休みです

